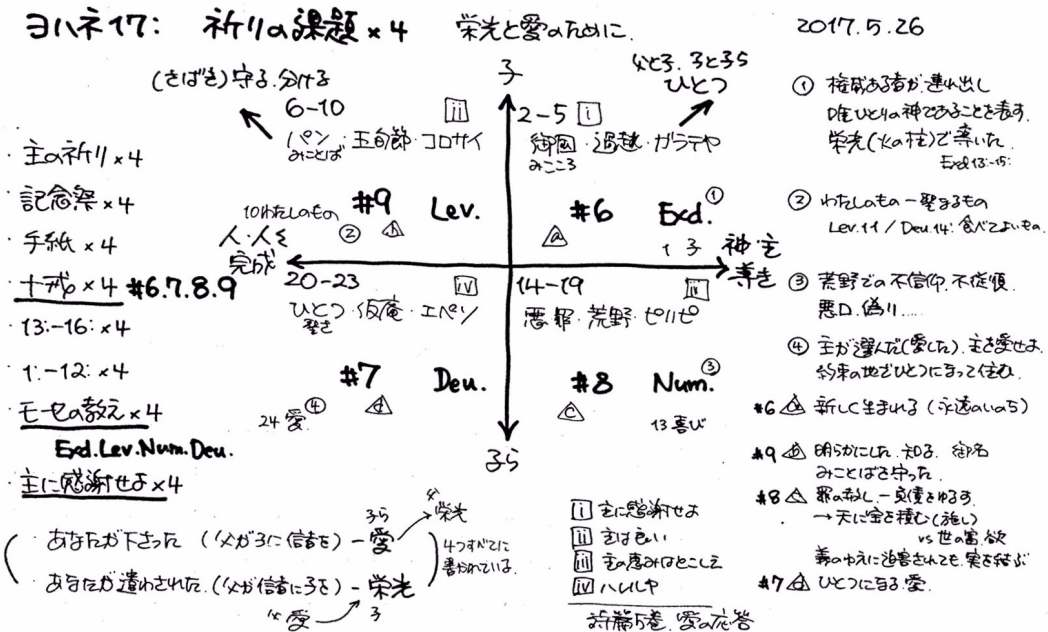




大祭司の祈り ヨハネ福音書17章



ヨハネ福音書17章。13章のところからです。過越の祭りの前に愛を弟子たちに教えましたという13章から16章までを受けて、17章の勝利の祈りという「大祭司の祈り」と言われているところです。

初めの創造の時に…そこから始まりましたね。ヨハネ福音書「初めに」というところでしたけれど、この最後のところ。今度は御子が子どもたち、信じる者たちを創造する。キリストに似た者として創造するということで、この新しい天と地が始まりますという勝利のストーリーが13章からいよいよ始まりますというところです。

13章から16章の中に神の命令を愛して、守って、神様を愛しますということが言われていたりして…これは前回のものです。モーセが最後に言葉を与えて、ヨシュアが知恵の霊に満たされて主に仕えるといっているモーセとヨシュアのストーリーです。新しい過越のほうですから、ヨルダン川を渡った過越のところなどを思い出します。新しいヨシュアが民を連れ出すという背景になっています。

ヨハネ17:

私はあなたとともにいる (聖霊) Goodbye - God be with you.

2013.4.22

11b-12

聖父よ.

御名の中に
(聖霊. 1ヨハ11:13)

11a

あなたに行く

6-10

2-5

1b

3a 栄光と現る時.

・パン(あなた)

・御国(支配)あなた. 6:38-40

・五旬節(あなたを待てる)

・過越(光あふ. 栄光の火の柱)

・コロサイ(あなたを. 知る)

・ガラテヤ(愛し. 慕)

25-26

正しい父よ.

御名を知る (知る)

(良いもの. マタイ:11)

24

私の栄光を見る.

20-23

14-19

13

あなたに行く.

・ひとつになる(聖霊が来る). 悪から守る. 聖別する(罪)

・仮庵(ひとつになる. 結婚). 40年(辛い)

・エペソ()

・ピリピ(海客の舟を乗る)

・祈りの課題は. 主の祈り.

→ 弟子たちの手紙.

・勝利のストーリー. 祭りの型
(新しい創造)

ヨハネの手紙.

ガラテヤ. エペソ. ピリピ. コロサイ.

前回、2013年に分析しました。これはこれで、よく頑張りましたという感じです。この時には、祈りの課題という感じです。祈りの課題だと思われるお願いしている内容の4つを、主の祈りの4つ、御国、パン、悪から守る、ひとつになる、という(悪から守る)罪の赦しのところ、これは(ひとつになる)御名があらわされるというところだと思いますけれど、主の祈りのパターン。過越の祭り、五旬節、40年の戦い、仮庵の祭りという祭りのパターン。それぞれに愛の教え、教会に愛を教える(教会の中ではなくて)、キリストと教会の愛について特に教えているガラテヤ、コロサイ、ピリピ、エペソということがそれぞれの段落、課題に対応しているという枠組みだろうというふうに見ましたね。

主の祈り×4

記念祭×4

手紙×4

十戒×4 #6.7.8.9

パン. 五旬節. コロサイ

あなた

#9 Lev.

20-23

ガラテヤ. エペソ

御国. 過越. ガラテヤ

あなた

#6 Exd.①

13 神主

ガラテヤ. エペソ. ピリピ. コロサイ

栄光(火の柱)を待てる.

Exd.13-15:

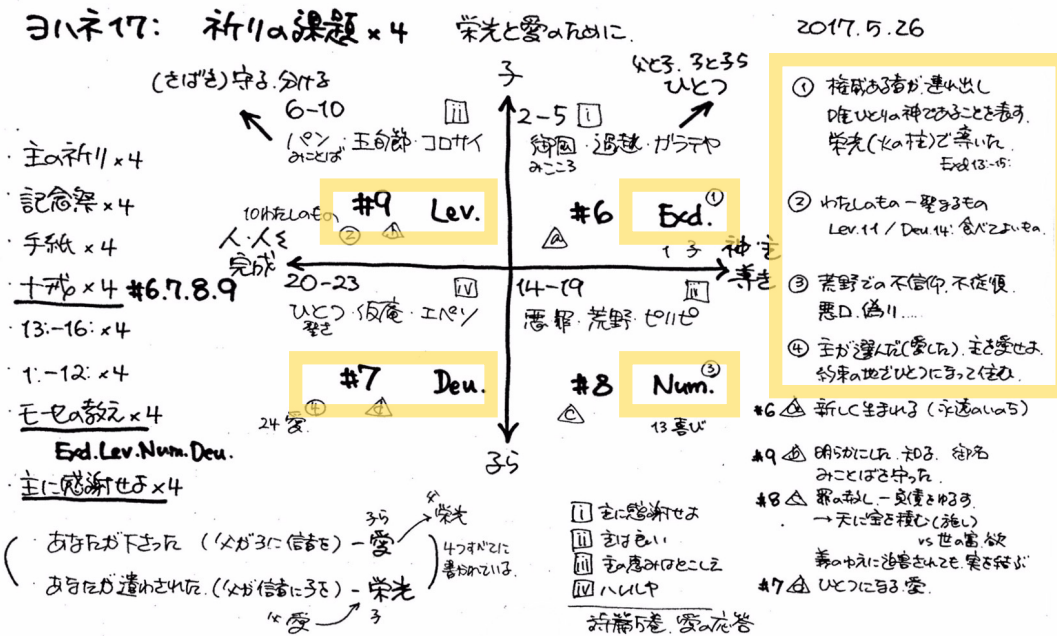
② わたしたち-聖霊の

Lev.11 / Deu.14: 食べよ.

③ 荒野での不信. 不従順.

Exd. 偽り.

今回、それをもう一度確かめました。確かめたのが、主の祈り、祭り、手紙、今回加えたのは、十戒です。十戒の6番目、9番目、8番目、7番目。これは、兄弟愛についての教えという#6,#7,#8,#9ということだと思いますので、愛を教えてくださいというところに、この#6,#7,#8,#9が入っているというのが妥当だろうということで、これを見ました。

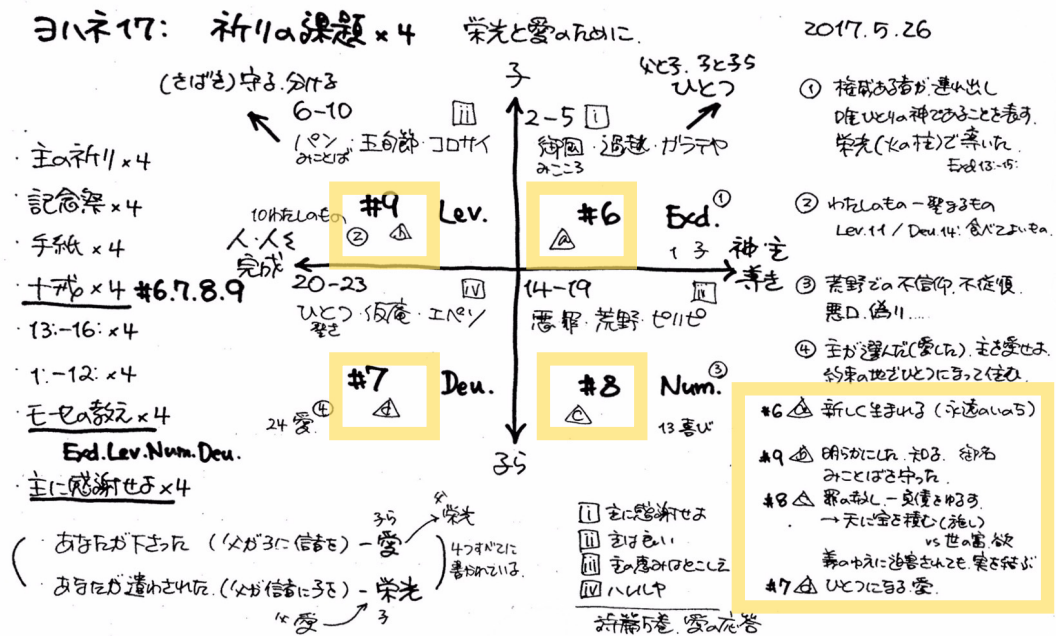


これは23日のもので、少し変えました。それで、26日のものがあります。①②③④と書いてあるところは、①出エジプト記、②レビ記、③民数記、④申命記と言っているのはどうしてかというのが書かれています。

例えば②レビ記のところに「わたしのもの」という言い方があります(申命記にもありますけど)。「食べても良いもの、悪いもの」聖別してわたしのものだということを表す戒めになっています。

④番目、「主が選んだ場所で主を愛しなさい。約束の地でひとつになって住むためです。」というのが、申命記の教えです。主が選んだというのは、主が愛したということになります。選ぶことと愛することというのは、特別に分けている、特別にしているということですから、そのことが申命記に書かれているということです。

①出エジプト記、②レビ記、③民数記、④申命記という、悪口、偽り、荒野で不信仰、不従順と戦っているということとか、①主の栄光の光で導き出してくださったとか、「唯一ひとり」という言い方もありましたね。「唯一まことの神です(ヨハネ福音書17:3)」ということも言っていますので、出エジプト記のところということが言えると思います。



次に、三角形になっているa,b,c,dが、十戒です。a,b,c,dですから、6戒,9戒,8戒,7戒としました。

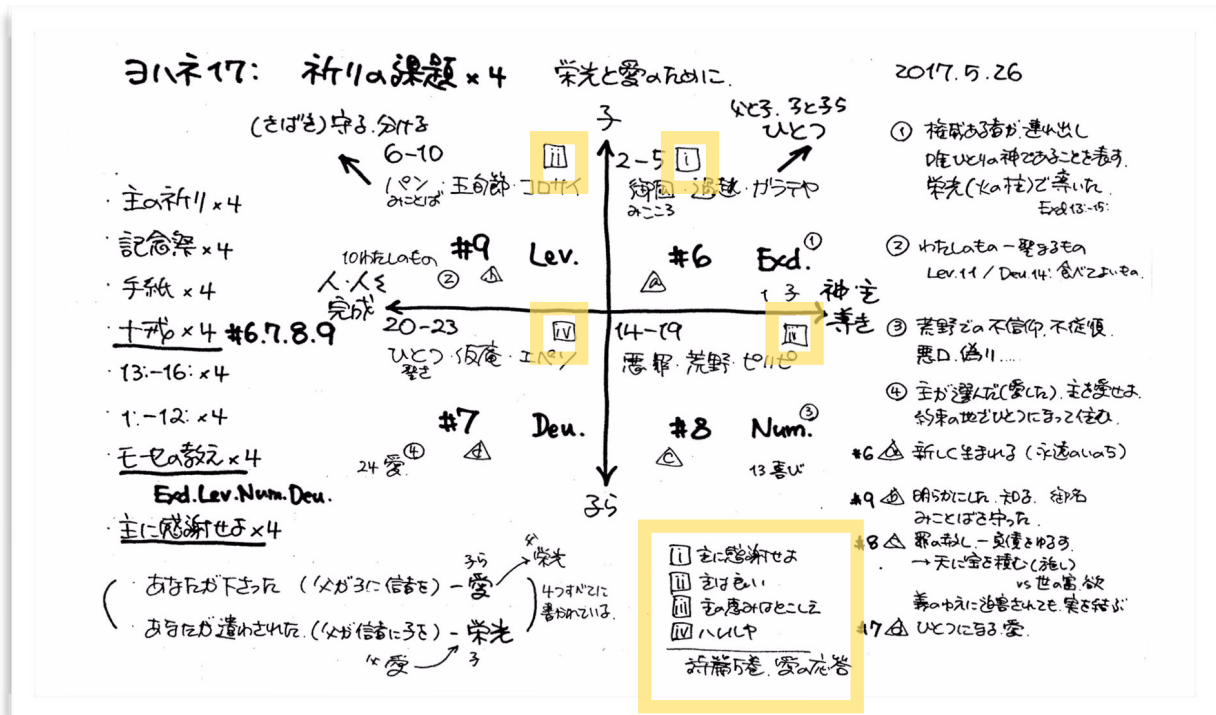
6戒(a)のところは、新しく生まれる永遠のいのちが与えられる、新しく生まれるところ(ヨハネ福音書17:3)ですね。

(9戒)bのところ、ここ(ヨハネ福音書17:6-10)がみことばを与えて知らせました。確かに知りました、信じたというところが、知恵を与える偽りじゃないその真理のみことばを明らかにしました、あらわしましたということで、偽りの「偽証するな」というところだろうというふうに入れました(#9,△b)。みことばを守る、知っているということで、この偽りだという行動は守らないということですから、偽りにしないということはこの段落(17:6-10)で言われているのではないかと(思います)。

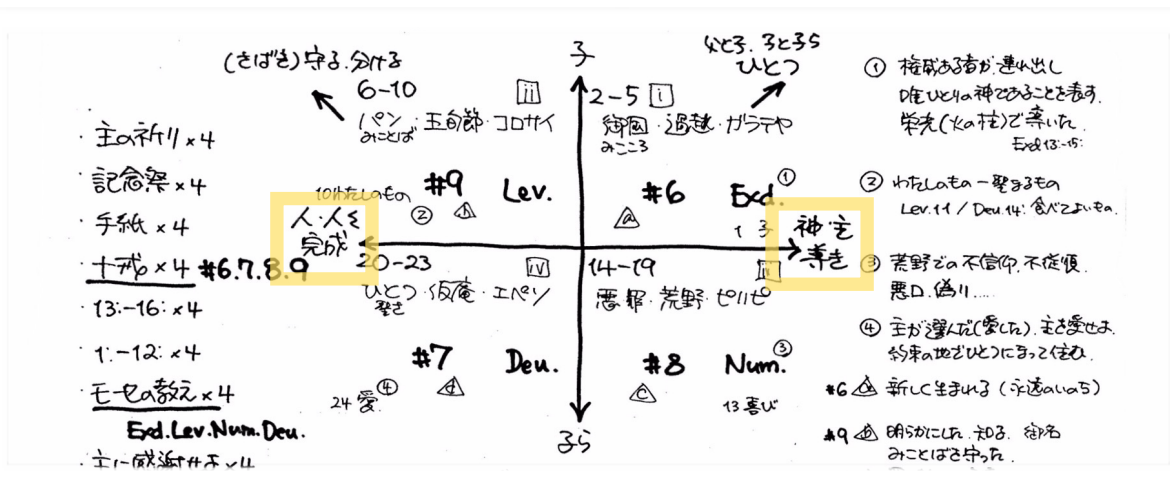
それと、最後のここ(17:20-23)は、一つになります、一つになりますと言っていますから、愛の話だという7番目の姦淫するな命令に従ってあらわしているということがわかるかと思います。

8番と言っているここ(17:14-19)がわかりにくかったのではないかと思います。悪から守ってくださるように(14-16)、そして、聖別するということ(17-19)が、2つ言われています。主の祈りの5番目と6番目のような感じです。ここで、何故この8番目の「盗んではならない」というものなのかということなのですが、世と離れてというようなこともあるのですが…。例えばこちら、罪の赦しというのは、負債をゆるすという言い方でも主の祈りで言われています。ですから、「施しをする、負債をゆるす、この世の富に支配されていないということは、天に宝を積むということですよ。」ということでした。「義のために迫害されている者は喜び踊りなさい。その人は天の御国には入れる者なのだから。」とされていますね。ですから、自分を捧げる、義の道に満たされる、幸いを受ける道はこの道なのです。これは、「盗むな」本当の富、この世の富ではなくて、天にある富、天の富に目を留めるということが「盗むな」ということの反対

の肯定的な戦いということだと思います、この段落を8番目というふうに考えました。

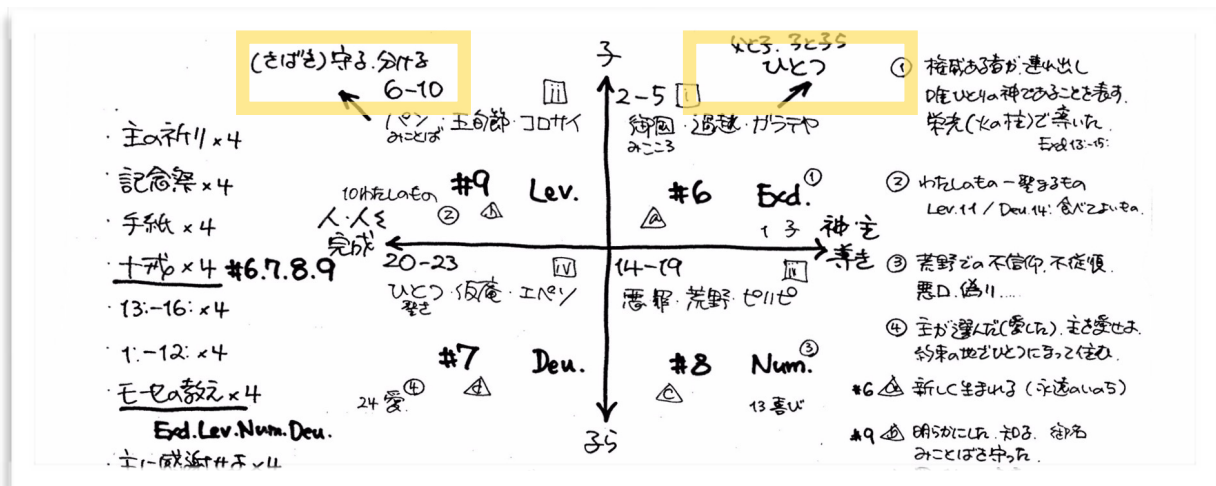


もう一つ追加したのが、これ i ii iii iv です。愛の教えですので、それぞれ、詩篇第5巻の4つに分けたものに該当しているかなと思いました。神の契約の愛に対して愛で答えるというのが第5巻ですので、「i 主に感謝せよ。ii 主はまことに良い方、iii その恵みはとこしえまで。iv ハレルヤ。」という4つの段落です。主に感謝すること。主の良いいみことば。そして、荒野を恵みによって導いて、最後に勝利を収めるという4つの段階にそれぞれが並行しているのではないかなというふうに考えての四角の i ii iii iii というところです。

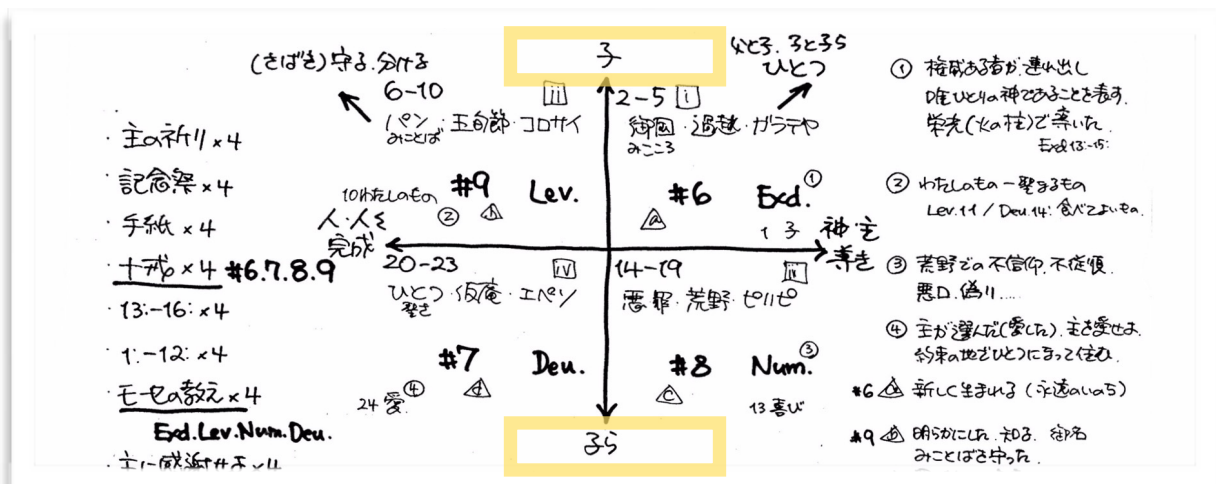


i ii iii iv というと、ここ(17:2-5)とここ(17:14-19)は、神様が導く(2-5)、神様が守る(14-19)という神様側の働き。後半の2つ(17:6-10,20-23)。こちら(6-10)は、人々が知る、

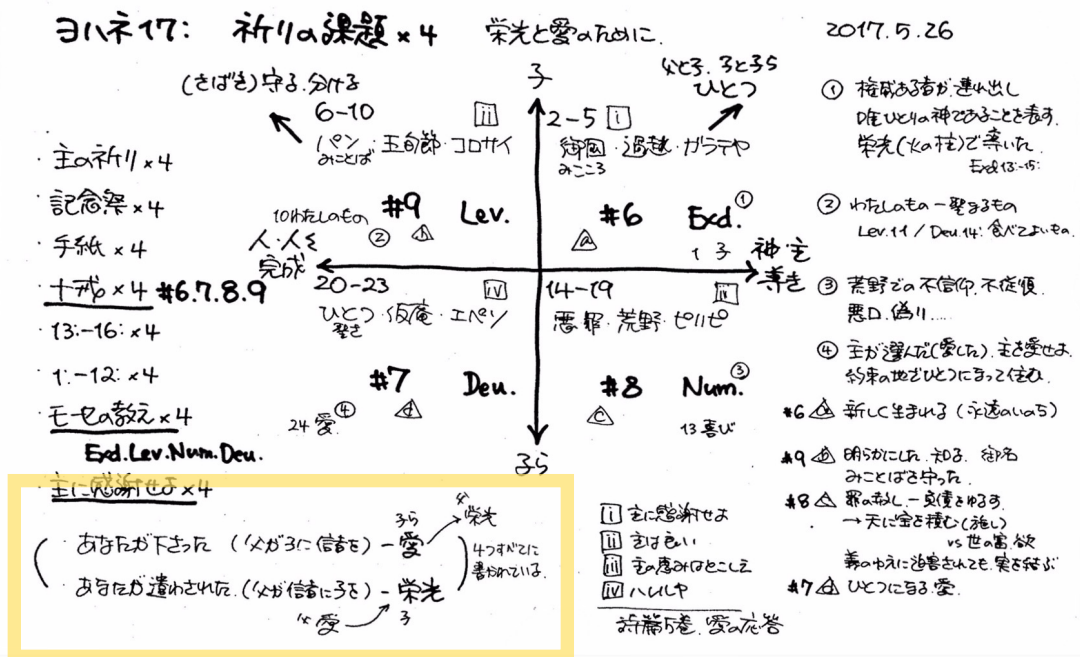
(20-23)人々が一つになるということで、人々の完成。導き(17:2-5,14-19)と完成(17:6-10,20-23)というふうに区別してみました。



こちら(17:6-10,14-19)が守る、分ける、裁く、神様のみことばを守るなら、守られるという並行です。こちら(17:2-5,20-23)は、一つになるというほうです。こちら(17:6-10,14-19)は、分けるほう。父と子一つ(2-5)です。子と子ら一つです(20-23)という一つとなるという並行があるかと思います。



上の2つ、特に子について、父が遣わした子である。子は御霊を送ります。みことばを送りますという子側が強調されているかなと(思います)。その受けたほうの子らの側が、この世と戦う。キリストが、父と子が一つであるように、彼らも一つになる。彼らを通して信じる人のためにも頼みますということで広がっていつていますね。ですから、子と子らという並行もあるかなというように、ここ(子と子ら)と、このバツテンと三方向に並行があるので、ぐるぐる回っているような感じがしますが、そういう並行があると思います。



17章の4つの段落、どの段落にも「あなたが下さったもの」という言い方と、「あなたが遣わされたもの」という言い方があります。

「遣わされた」「遣わされた」「遣わされた」「遣わされた」。「下さったみことば」
「下さった栄光」「あなたから頂いたこのみことば」という形なのですがけれども「あ
なたが遣わされた」と言っているほうは、父が信じる者たちに子を遣わした。その子は
父の栄光をあらわしているということです。

それと、「あなたが下さった」と言っているのは、父が子に信じる者たちを下さいました。それは、子らの愛、子らが愛しているということですから。愛と栄光が全体にわたっていますので、大切な2つのキーワードだと思いますけれども、父が愛をもって子を与えたということによって、栄光があらわされます。子を与えられた子らに愛を教えて愛の一致が与えられるという、父の栄光があらわされます。

ということで、愛と栄光、愛と栄光ということで、上から来たものが、下から帰ると
いう応答になっています。それ全体を支えているのが御霊だということが、この前の段
落でわかるというように見えていますので、次にこの4つの祈りの課題をあらかじめ教え
たわけですから、13章から16章までの中と、この17章を一緒に見てみるということに
よって、この17章の祈りがもっとよくわかると思います。

罪を認め、悪から守る。 世-みもと